

# 図書館 だより

秋 2000. 10 No. 268

2000年子ども読書年記念  
広島市文化施設シヨイント事業

- 企画展「よみがえる「ぎんのすず」の世界—戦後の広島から発信された児童文化—」…1面
- 「ぎんのすず」とは・広島図書・「ぎんのすず」の価値 …2面
- 「ぎんのすず」の主な執筆者 …3面
- 中央図書館講演会のご案内 …4面
- リクエストベスト5（一般書・児童書・まんが）／平成12年9月1日現在 …4面
- 利用案内・休館日のお知らせ …4面

企画展  
**よみがえる「ぎんのすず」の世界**  
—戦後の広島から発信された児童文化—  
中央図書館で10月11日(水)から11月12日(日)まで



児童文学史上の宝物が広島に帰ってきた！

有名作家の作品もソクソク

昭和20年代、広島の出版社方らある教育雑誌方出版された『ぎんすず』。その名も「ぎんすず」。全国の子どもたちから大人気を得た雑誌でしたが、今こそその名を知る人も少なくなっています。

『ぎんすず』、発行所の編集者方ら、中央図書館に多数の「ぎんすず」やその関連資料が寄贈されました。その充実した内容に比べ、今日まで充分な評価を得られなかった『ぎんすず』が、このたびは「ぎんすず」展として、あつたはる「ぎんすず」展として、戦後の児童文化の歴史を伝える貴重な機会として開催されています。

この展覧会では、戦後の児童文化の歴史を伝える貴重な機会として開催されています。



## 「ぎんのすず」とは

「ぎんのすず」と聞いてピンとくる方がどれくらいおられるでしょうか。昭和20年代に小学生だった方とその保護者、あるいは当時の小学校の先生方なら、「あった。あった。」と思い出されるかもしれません。

**原** 爆投下からちょうど一年後の昭和21年8月6日、まだ原爆の傷跡が大きく残る広島市で一つの教育雑誌が誕生しました。戦後の新しい教育内容や文化・娯楽を求める広島の子どものために生まれたこの雑誌の名を「ぎんのすず」といいます。

**創** 刊したのは広島の教師で結成された広島児童文化振興会です。創刊号は低学年向、高学年向各1枚ずつの両面刷りタブロイド版でした。

**と**ころが早くも創刊2号目の同年10月からは低・中・高学年向ごとにきちんと製本された本格的な雑誌となりました。当時としては上質な用紙が使われ、きれいな色刷りのページがふんだんにあるその印刷製本を担当したのが広島印刷株式会社（後には広島図書株式会社）で、その後編集も同社が行うようになり、同社の看板雑誌となりました。（なお、誌名は学年によって「ギンノスズ」「銀の鈴」なども用いられていますが、ここでは「ぎんのすず」で統一しています）

**各** 学年に合わせた学習記事だけでなく、楽しい読み物や漫画なども満載された「ぎんのすず」は子どもたちの心をとらえ、読者は全国に広がっていきました。

**執** 筆陣は、当初は地元広島の教師や大学教官、作家、画家が中心でしたが、後にはサトウハチローや長谷川町子など中央で活躍する有名・新進の作家や画家たちも加わることでますます人気も高まり、一時は毎月100万部以上出版されたと言われていました。

## 広島図書

**広**島でほとんどの「ぎんのすず」を世に送り出した出版社が広島図書株式会社（以下「広島図書」）です。社長の松井富一氏は、原爆で廃墟と化した広島の小学校で子どもたちが熱心に本を読んでいる姿を見て、日本再建のために子どもたちのための本を作ること決心したとのちに語っています。



広島図書発行雑誌の一部



広島図書社長松井富一氏とその著書



映画「ぼくらのゆめ」撮影風景



「銀の鈴文庫」の一部



広島図書の内部風景



移動図書館

「ぎんのすず」で大成功をおさめた広島図書はその勢いで、「銀の鈴」「青空」などの雑誌や、「銀の鈴文庫」などの単行本、そして教科書の出版を始め、その一方で児童映画「ぼくらのゆめ」の製作、自動車による移動図書館の運行などさまざまな児童文化の分野にも進出していきました。

しかしその後、社会や時代の変化、経営事情等により、昭和28年には広島を拠点とした「ぎんのすず」は姿を消し、その拠点を東京、大阪へと移していきました。

## 「ぎんのすず」の価値

**戦**後の一時期、広島の教育や日本児童文化の歴史の中で輝き、みことな音色を響かせた「ぎんのすず」ですが、今では地元広島でも一部の人の記憶の中にうすもれたままで、その貴重な価値が十分知られているとはいえません。

しかし、一点一点の作品を丁寧に調べれば、有名作家の未だ知られていない作品が見つかり、文学史に新たなページが

書き加えられる可能性もあるのです（すでに児童文学作家・海野十三の全集にも収録されていない未紹介作品がこのたび発見されています）。

**広**島だけでなく、日本の児童文学史上にも貴重な資料がほぼ半世紀ぶりに広島に帰ってきました。当時の読者だっただけでなく、若い方たちにもぜひご覧いただきたいと願います。

## 中央図書館からのお知らせ

このたびの寄贈で中央図書館の「ぎんのすず」の蔵書はかなり充実しましたが、まだ欠落部分も残っています。「ぎんのすず」をはじめ広島図書株式会社が発行していた図書をお持ちの方は、中央図書館までお知らせいただければ幸いです。

## 「ぎんのすず」の主な執筆者

一部の作家については作品を展示しています

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <p>《児童文学作家》</p> <p>池田富政<br/>火野葦平<br/>氏原大介<br/>海野十三<br/>絵馬三平<br/>大林清<br/>岡本良雄<br/>片山昌造<br/>河合三郎<br/>川崎大治<br/>神戸淳吉<br/>橋山正雄<br/>久保一<br/>久米元一<br/>久留島武彦<br/>佐伯千秋<br/>酒井朝彦<br/>佐藤さとる<br/>佐藤美三<br/>柴野民三<br/>白木茂<br/>土家由岐雄<br/>藤井敬一<br/>鶴見正夫<br/>徳永寿美子<br/>長崎辰造<br/>奈街三郎<br/>西山徹夫<br/>二反長半<br/>浜田広介<br/>平塚武二<br/>牧野吉晴<br/>橋本桐郎<br/>三木澄子<br/>水上明<br/>水谷まさる<br/>宮崎博史<br/>宮原無果樹<br/>宮崎紀雄<br/>山主敏子<br/>横山美智子<br/>吉田甲子太郎<br/>吉田敏二<br/>渡辺哲夫<br/>ほか</p> <p>《一般文学作家》</p> <p>青柳瑞穂<br/>阿部知二<br/>一ノ瀬幸三<br/>乾信一郎<br/>井上究一郎<br/>伊馬善部<br/>大木雄二<br/>尾崎一雄<br/>尾崎士郎<br/>神谷弘<br/>香山滋<br/>黒田三郎<br/>坂西志保<br/>寒川光太郎<br/>城昌幸<br/>芹沢光治良<br/>立野信之<br/>垂井米隆<br/>水井隆<br/>野尻抱影</p> | <p>畑耕一<br/>春山行夫<br/>山行平<br/>火野葦平<br/>広津和郎<br/>福井研介<br/>福田清人<br/>北条誠<br/>細田民樹<br/>村岡花子<br/>村上元三<br/>森田草平<br/>若杉 慧<br/>ほか</p> <p>《詩人》</p> <p>江間章子<br/>大江海男<br/>大木樗夫<br/>大木実<br/>勝 承夫<br/>北川冬彦<br/>草野心平<br/>嶋原しげる<br/>西条八十<br/>サトウハチロー<br/>神保光太郎<br/>竹内てるよ<br/>深尾須磨子<br/>水谷まさる<br/>三好達治<br/>百田宗治<br/>八十島 純<br/>与田準一<br/>ほか</p> <p>《挿絵画家・漫画家》</p> <p>萩 拾二<br/>天木茂晴<br/>新井五郎<br/>飯塚芳児<br/>井江春代<br/>生沢 朗<br/>井口文秀<br/>石井達治<br/>石田英助<br/>伊勢良夫<br/>伊藤幾久造<br/>伊藤隆夫<br/>松野一夫<br/>入江しげる<br/>いわさき ちひろ<br/>岩崎良信<br/>岩本 晃<br/>上田三郎<br/>太田次郎<br/>大槻きよし<br/>小川哲夫<br/>小幡俊二<br/>鏡治一<br/>勝山ひろし<br/>花野原芳明<br/>川上四郎<br/>河目悦二<br/>川本哲夫<br/>北田卓史<br/>草野有矩<br/>国保広治<br/>久保雅勇<br/>くまがわ</p> | <p>倉金章介（良行）<br/>黒崎義介<br/>河野きみ<br/>古賀登十夫<br/>小坂 茂<br/>小林和郎<br/>小松崎 茂<br/>駒宮録郎<br/>斎藤五百枝<br/>斎藤くにお<br/>斎藤長三<br/>さかみひさこ<br/>沢井一三郎<br/>清水良雄<br/>鈴木悦郎<br/>鈴木御水<br/>鈴木寿雄<br/>鈴木登良次<br/>鈴木未央子<br/>藤尾太郎<br/>多賀 正<br/>高井 貞二<br/>武井武雄<br/>武田将美<br/>辰巳まさ江<br/>田中 良<br/>中島 秋彦<br/>那須良輔<br/>西島武部<br/>野沢一夫<br/>長谷川町子<br/>長谷川露二<br/>初山 滋<br/>馬場のぼる<br/>浜崎 左衛子<br/>林 義雄<br/>原やすお<br/>平井庸人<br/>福井芳一<br/>福井福助<br/>伏石しげお<br/>吉沢日出夫<br/>堀 文子<br/>前谷惟光<br/>松田文雄<br/>松野一夫<br/>松本かつぢ<br/>三木ますお<br/>水野二郎<br/>耳野卯三郎<br/>三芳悦吉<br/>向井清吉<br/>村上松次郎<br/>安 泰<br/>梁川剛一<br/>山川惣治<br/>山中冬児<br/>山根青鬼<br/>山根赤鬼<br/>夢野凡天<br/>横井福次郎<br/>吉崎 一<br/>吉崎正巳<br/>吉沢廉三郎<br/>ほか</p> |
|---|---|---|

協力：ぎんのすず研究会



## 中央図書館 講演会のご案内

中央図書館展示ホールで行われる企画展「よみがえるぎんのすずの世界一戦後の広島から発信された児童文化ー」に関連して講演会を開催します。



- 第1部 「ぎんのすず」で活躍した人々  
講師：三浦 精子 氏（児童文学者）  
第2部 「ぎんのすず」を飾った詩人たち  
講師：伊藤真理子 氏（詩人）

日 時：平成12年10月22日（日）

第1部 13:30～14:30

第2部 14:30～15:30

会 場：中央図書館3階セミナー室

申込方法：中央図書館へ電話か、来館のうえ、お申し込みください。

広島市立図書館で貸出予約の多い本を紹介します。みなさんのお手元に届くまで少し時間をいただくようですが、楽しみにお待ちください。

### 【一般書】

- 1 だから、あなたも生きぬいて (大平光代著 講談社)
- 2 永遠の仔 上・下 (天堂荒太著 幻冬舎)
- 3 巨泉 (大橋巨泉著 講談社)
- 4 命 (柳美里著 小学館)
- 5 ほんくら (宮部みゆき著 講談社)

### 【児童書】

- 1 ハリー・ポッターと賢者の石 (J.K.R-リク作 静山社)
- 2 弁護士渥美雅子 (板倉久子著 理論社)
- 3 特ダネは海のにおい (緒島英二作 ポプラ社)
- 4 スウィート・メモリーズ (別-抄-呼-作 金の聖社)
- 5 心の底をのぞいたら (なだいなだ著 筑摩書房)

### 【まんが】

- 1 王家の紋章 (細川知栄子著 秋田書店)
- 2 クローバー (稚野鳥子 集英社)
- 3 Gals (ギャルズ)！ (藤井みほな著 集英社)
- 4 天馬の血族 (全24巻) (竹宮恵子著 角川書店)
- 5 天使のツラノカワ (一条ゆかり著 集英社)

## 利用案内

### 中央・各区図書館

#### 開館時間

火～金 午前9時～午後7時

土・日 午前9時～午後5時

文化の日 午前9時～午後5時

#### 休館日

毎週月曜日

国民の祝日（文化の日を除く）

図書整理日（毎月末日。ただし土・日・月曜日にあたるときは直前の金曜日）

8月6日（平和記念日）

文化の日の振替日

年末年始（12月28日～1月4日）

特別整理期間

### こども図書館

#### 開館時間

火～日 午前9時～午後5時

#### 休館日

毎週月曜日

国民の祝日の翌日

月末整理日（毎月末日。ただし月曜日にあたるときはその翌日）

8月6日（平和記念日）

年末年始（12月28日～1月4日）

特別整理期間

### まんが図書館・あさ岡読書室

#### 開館時間

火～日 午前10時～午後5時

#### 休館日

毎週月曜日

国民の祝日の翌日

図書整理日（毎月末日。ただし土・日・月曜日にあたるときは直前の金曜日）

8月6日（平和記念日）

年末年始（12月28日～1月4日）

特別整理期間

## 休館日のお知らせ 10月～12月

10月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月						
日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月						
日	月	火	水	木	金	土
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

#### 特別整理期間のお知らせ

- \*安南区図書館 10月11日～10月19日
- \*中区図書館 10月19日～10月22日
- \*まんが図書館あさ岡読書室 11月14日～11月19日
- \*安北区図書館 11月28日～12月3日
- \*南区図書館 12月5日～12月10日

特別整理期間中、図書館は臨時休館します。

## 編集・発行

Hiroshima Central City Library  
広島市立中央図書館  
〒730-0011 広島市中区基町3番1号  
www.nighty.ne.jp/hiroshima.city.lib  
TEL 082(222)5542  
FAX 082(222)5545



○全館休館  
□こども・まんが図書館・あさ岡読書室のみ休館  
(ただし、12月26日、こども図書館は開館します。)  
●中央・各区図書館のみ休館  
■こども図書館のみ休館